

街頭指導の準備と本番



1 街頭指導の準備のために

①現状の把握

街頭指導を行うにあたっては、担当者は現場の状況を把握し、その上で実施計画を立てることが望ましいです。もし、地域や学校で特別なルール等がある場合は、事前に情報共有しておきましょう。

②用意するもの

プラカード、目立つ服装（オレンジブルゾンなど）、腕章、合羽（雨天の場合）、スタッフ配置図など

③スタッフ配置図の例



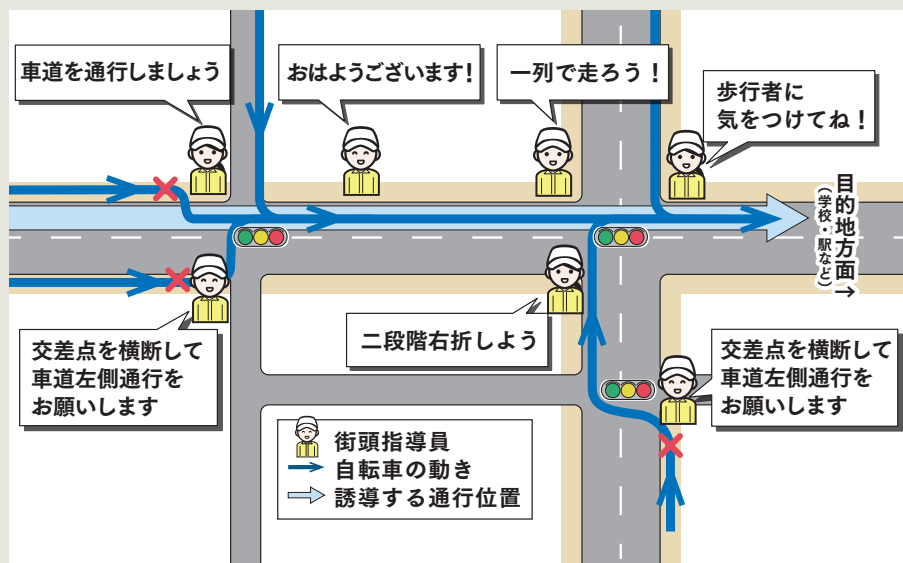
【中央小学校周辺街頭指導配置図】



【有松・久安街頭指導配置図】

自転車の車道走行への誘導 どこで自転車を歩道から降ろすか？

歩道は歩行者のための空間であり、自転車は車道通行が原則です。歩道通行してきた自転車がいた場合、どこで自転車を歩道から車道に降ろすか、また、右側の歩道を走行してきた自転車をどこで反対側の車道に誘導し渡らせるかは重要なポイントです。



【街頭指導の人員配置と声掛けのイメージ】

交通量が多い大きな交差点の近くでは、自転車を急に止めて歩道から降ろすことはかえって危険な場合があり、自転車の運転者がパニックに陥ることもあります。そこで、大きな交差点の手前の交差点か、もっと離れた地点に立って誘導する必要があります。誘導する際は、自転車には車道のクルマや自転車に注意して後方確認するよう促します。著しく交通量が多く、車道の幅が狭いなど、かえって危険な場合は、無理に車道へ誘導することはやめましょう。また、安全に指導することが難しい箇所では、警察の方と協力して行うことも一つの方法です。

効果的な街頭指導をするためにも、担当者がどこに立って、どこで自転車を歩道から車道に降ろすかあらかじめ決めておくなど、各自の役割分担を事前に決め、共有しておくことを勧めます。

2 実際に街頭指導では何をするのか？

街頭指導では、プラカードを持って、自転車に交通安全上の注意を呼びかけます。その際に指導する側に回った人は、ルールを完璧に守るよう押し付けたり、急に自転車を止めるなど、指導が一方的にならないよう、注意することが大事です。むしろ、最初は「おはよう」とか「おはようございます」など、朝のあいさつから始めることが大事です。交通安全教育の前のコミュニケーションづくりが、長い目で見て、街頭指導の効果を高めます。また、言葉で注意するよりは、実際に目で見て路面標示を理解するなど、実践行動が大切で効果があります。

街頭指導する方自身が危ない行動をとらないことも大切です。指導に集中して車道に出たり、自転車の前に飛び出したりしないようご自身の安全にも十分気をつけてください。



【街頭指導前のミーティング】



《プラカードの例》

自転車はレーン左側通行
並進禁止 一列で通行しよう



【プラカードのデザイン例】

全校生徒への交通安全呼びかけ動画の作成にあたり

石川県立金沢西高等学校 令和2年度生徒会長 3年 永瀬 琴乃

(制作者: 会長 3年 永瀬 琴乃、副会長 3年 大岡 呼夢、

副会長 2年 田中 瑛輝、会 計 3年 下橋 凪 計4名)

私たちがこの動画を作成したきっかけは、生徒諸君から意見や情報を得るための生徒会執行部宛てに設置した目安箱に「交通マナーの呼びかけをして欲しい」というものがあったからです。

最初に思い付いたことは、登校時、生徒会メンバーが道路に立ってマナー違反をしている人に直接注意する案でした。しかし、それでは「注意されたから直そう」という一時的な改善行動にしかつながらないと思いました。違反行為がなぜダメなのか？ということが分からないと、また繰り返し違反運転をしてしまいます。そこで、迷惑だと感じた側の立場の視点で考え、その状況を再現することで今まで交通マナーを意識してこなかった人にも相手の気持ちが伝わるのではと思い、今回の動画撮影に至りました。

続いて制作でのシチュエーションについては、あまり真面目なシーンを作ってもみんな見てくれないのではと思い、たくさんの人にこのビデオを見てもらって印象に残ってもらうこと。そして少し笑ってもらえるようなストーリーに仕上げることで楽しく理解してもらうことを考えました。従って各場面において、生徒会執行部の役員が様々な表情をビデオの中で面白くおかしく演技して作りました。結果、より内容も伝わりやすいものができたと思います。

完成後、校内のディスプレイで動画を3週間配信してもらってからは、友人の生徒たちからは好評価で日常の会話の中にも動画の話が出てきます。私は、交通マナーは思いやりがあれば自然と守れるものと思います。また、このビデオを見てこれから広い視野と思いやりの心を持つ人が少しでも増えたら嬉しいです。



女の子3人組が
おしゃべりしながら
家に帰るところです。
そこに後ろから自転車が…
3人は気づいていません。

3 本番でのスケジュール

以下を参考に、簡単なスケジュールを立てましょう。

参考例① 有松・久安街頭指導

集 合：7:30 開会式、街頭指導：7:30～8:10

参加者：金沢中警察署(2名)(◎挨拶)

金沢中街頭交通推進隊(8名)、

金沢中地域交通安全活動推進委員(7名)

「地球の友・金沢」(2名)

高校教員(3名：金沢泉丘高校、金沢伏見高校、金沢高校)

金沢市(3名)(○進行) 合計25名



参考例② 金沢市立工業高校周辺での街頭指導と自転車簡易点検

集 合：7:50 開会式：7:50～7:55

街頭指導及び反射材の取り付け 7:55～8:20

駐輪場にて自転車簡易点検 7:55～10:00

グッドマナーキャンペーン 8:00～8:20(市立工業高校PTA、校下婦人会)

参加者：金沢西警察署(4名)(◎挨拶)

金沢西地域交通安全活動推進委員(12名)

町会連合会

金沢市交通安全母の会(2名)

金沢市立工業高等学校教員数名+生徒(18名)+PTA

金沢市(3名)(○進行) 合計約40名

街頭指導と並行して行える取組

時間が許すかぎり、参加者で振り返りをしましょう。街頭指導に初めて参加する人がいるかもしれませんし、その都度気づくことがあるかもしれません。大事なことは、街頭指導を交通安全教育の一環と位置づけ、その意識を共有することです。

年度初めに、お互いのコミュニケーションをはかるため関係者での打合せの会を行うことも良いとの意見もあります。



さらに、交通安全教育を街頭指導の日だけでなく、クラス単位にどのように広げていくかも重要です。そのためには、生徒指導担当教員のみならず、学校の教員全体の中にどのように広げていくかということも重要な課題です。

「地道な取組の継続」が地域を安全にする

中山 哲也氏 金沢市都市政策局歩ける環境推進課 主査(2009-2012年度)

計画に基づき、まちなかの細街路での自転車走行指導帯の整備に向けて、地域住民と高校生が、現状の確認やお互い困っている点など意見を出し合い、課題を共有し、協力して安全で快適な交通環境づくりを目指した意見交換会を開催した。

指導帯の整備にあわせて、地域住民はもちろん、高校の先生・生徒、警察など様々な関係者によるルール遵守・マナー啓発の街頭指導を幾度となく実施した。

指導帯の整備や街頭指導の結果、歩道通行や並走する自転車通学の高校生が激減し、その地域にある小学校の通学児童も歩道を安全に通行できるようになった。

顔が見える事が良い方向につながり、高校生、地域住民お互いの元気な挨拶が飛び交うようになり、快適な交通環境の形成に寄与。地区内を走行する自転車の通行速度も低下。

指導帯の設置に反対していたある町会長も街頭指導に毎回参加。その後、「(笑いながら)もっとどんどん自転車の線引けや」と励ましのお声をいただいた。地道な取組の継続が大事。



「地域ぐるみの連携・協働」が最も重要

島田 貴幸氏 石川県県央土木総合事務所 維持管理課 係長(2014-2016年度)

当時の連合町会長さんから、考える会のみんなで現場を点検する提案があった。現場点検では利用者の動線に合わせた横断歩道の移設や路側帯にある電柱の移設等の検討について意見が出された。

地域ぐるみでの連携・協働が最も重要であると思う。地元の方々には現場の点検、電柱移設先の地権者への説明、考える会への参画、街頭指導など、多岐にわたって協力していただき感謝している。

警察の担当者の方にも大いに協力していただいた。安全対策について建設的な議論をしていただき、とてもやりやすかった。

県内では矢羽根の路面表示はペイント式が主流であったが、倉部金沢線では、耐久性に配慮して、熔融式で試験的に施工を行い、現在では熔融式が主流となっている。

街頭指導などを通して、地域の方々が連携し、地元の安全は地元で守るといった気運がさらに高まっていくとよいと思う。



4 街頭指導のポイント

効果的な街頭指導を継続的に行う際のポイントを、以下のようにまとめています。



地域との連携

- ・街頭指導では、地域住民、警察、道路管理者、学校関係者などと連携を図ることが重要です。
- ・関係者が連携することで、交通安全に関する意識や課題を共有し、対策や改善へとつなげていくことができます。



コミュニケーション

- ・街頭指導は、地域やヒトとのコミュニケーションが重要です。
- ・交通ルールを学ぶだけでなく、街頭で顔を合わせ、挨拶や声かけをすることで、交通安全だけでなく、人と人のつながりを育みます。



押し付けでなく、共に学ぶ

- ・一方的に押し付けられたと感じられる交通安全教育では、自転車ルールやマナーは身につけません。
- ・街頭指導によって道路での危険を知り、事故を避けることや、他者への配慮についても学ぶことができます。



ハード整備との連動

- ・自転車通行空間の整備後に続いて街頭指導を行うことは効果があります。
- ・自転車だけでなく、歩行者や車のドライバーにとっても道路上の自転車マークや矢印、◀ 矢羽根マークが何を意味するかが視覚的にとらえられるので、自転車の安全走行やルールへの理解が深まります。



次につなげる

- ・自転車の通行状況や地域の課題によって、街頭指導の仕方も変わっていきます。
- ・街頭指導については、関係者が意見交換を行い、課題を共有することで、より地域の交通状況に適した指導方法に改善されていきます。

さらに関心ある人のために

以下では、自転車に関するインターネットのHPをいくつか紹介します。

- ① 健康や自転車通勤に関心のある方には、
バイクシマノのホームページ「マインドスイッチ」がお勧めです。



- ② 若い人向けに、自転車の基本的ルールを学べる動画としては、
金沢市自転車条例サイトの一番下にある
「もっと学ぼう！自転車のルール、マナー！」に
あるマナーアップビデオ「かなざわチャリーズエンジェル」

- ③ 中学生・高校生のための自転車交通ルールでは、
「知らなかった」ではすまされない ダイジェスト版



- ④ 内閣府ホームページ 令和元年交通安全白書(全文)
特集「交通安全対策の歩み～交通事故のない社会を目指して～」

- ⑤ 石川県警察交通安全情報(石川県警察本部)
石川県警察本部交通企画課のTwitter公式アカウント。
交通安全や交通取締りに関する最新情報を掲載。



- ⑥ 自転車運転者講習制度(石川県警察本部)
悪質な自転車運転者に対して、
講習の対象となる自転車での危険行為15項目を掲載。

編集後記

金沢市の自転車通行環境は、過去10年間で約30km以上が整備され、さらに自転車関連事故の発生件数も72%減少し(平成20(2008)年:659件⇒令和元(2019)年:184件)、国全体と比べても大きな成果を上げています。

この成果の背景として、通行環境を支えるハード整備を進めただけでなく、多様な関係者が連携と協働により「街頭指導」を行い、自転車利用者のルール遵守やマナーアップの周知・啓発を継続してきたことが重要であったと感じます。

また、本誌を作成する過程で、街頭指導を行っている地域交通安全活動推進委員、街頭交通推進隊、学校関係者の方々とワークショップ形式の意見交換を行い、ご意見を取入れました。これから街頭指導を行う方に、街頭指導を行う意義や、目的、現場で培われたノウハウを伝えていくためです。

本誌の作成にあたり、ご助言とご協力をいただいた関係者の皆様には、感謝の意を表します。このマニュアルが継続的な取組へつながるの一助となり、広く安全・安心な自転車通行環境づくりに向けた活動の展開につながることを期待しております。

国土交通省 北陸地方整備局 金沢河川国道事務所 調査第二課長
川原 克美



【関係者の方々との意見交換会(R2.2.2)】



【森山地区での意見交換会(R2.11.30)】

発行：金沢自転車ネットワーク協議会事務局

<https://www.hrr.mlit.go.jp/kanazawa/douro/bicycle.co/>



国土交通省 北陸地方整備局 金沢河川国道事務所 調査第二課

TEL 076-264-9912 FAX 076-233-9631

石川県 土木部 道路整理課

TEL 076-255-1726 FAX 076-255-1728

金沢市 都市政策局 交通政策部 歩ける環境推進課

TEL 076-220-2371 FAX 076-220-2048

協力：石川県警察本部

監修：地球の友・金沢

発行年：令和 3 年 3 月